

平成 26 年度 学内教育 G P プログラム 事業経費計画書 (継続型)

学 長 殿

申請者 (プログラム代表者名)

氏 名 半田 智久 印

(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

職名 理事・副学長

氏名 耳塚 寛明 印

事業名称	学生主体の新しい学士課程の創成 -21 世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型 専門教育- のうち、24 時間利用できる授業・学修支援システム (Plone) の整備と定着 (H25 年度終了予定)
取組代表者氏名 担当者名	代表：半田智久 担当：石田千晃、Plone 担当 AA
事業内容	<p>本事業は平成 25 年度に終了予定の「学生主体の新しい学士過程の創成」の事業期間 終了によって、その内容の一部である「24 時間利用可能な授業・学修支援システムの 安定的な利用と定着」を遂行するためのものである。</p> <p>2012 年度より Plone は、alagin (私の時間割) と連携しシングルサインオンを実現 させたが、その一方で、時間割確定後の利用に限定され、各学期開始後約 1 ヶ月は授業 利用ができなかった。この問題を解消すべく、学期開始と同時に速やかに Plone が利用 できるよう来年度から「自己登録システム」を導入する (現在開発中)。これにより、 第 1 回目の授業より、Plone の利用が可能になるが、これに伴い、既存のルーティン作 業に加え、「自己登録」された学生アカウントの追加作業が加わることになる。つまり、 【学期開始～時間割確定まで】は、①自己登録に伴うアカウント追加作業 (学期開始時 はほぼ毎日)、②利用申し込みがあった授業に対して、Plone サイトを生成、初期設定 作業、③利用方法の出前説明 (授業前後での説明や個別訪問)、④利用方法がわからな い学生への対応、といった業務が頻発することになる。【時間割確定後】は、⑤alagin (私の時間割) とのデータ連結作業が行われる。「自己登録システム」と「alagin (私 の時間割)」連携の両方を Plone に組み込むことによって、学期開始時の速やかな利用 が可能になるだけでなく、科目等履修生や単位互換学生の Plone へのアクセスをカバー することが可能になる。上記一連の作業に携わる AA には、IT の基礎知識と一定のト レーニングが必要である。③④に関しては、質問や要望があれば、随時対応が必要とな るため、申請者が不在の際にも対応できるよう、AA との複数人体制で業務を遂行する 事が望ましい。</p> <p>学修支援以外に、センター系の業務にも Plone は利用されており、現在、総合学修セ ンターの情報提供サイト、広報アテンダントのイントラサイト (学生と広報チームの情 報共有サイト)、リーダーシップセンターのイベント申し込みサイトに利用されている。 これらのセンター系の教員・職員の補助も Plone 担当 AA の業務に含まれる。</p> <p>また、Plone は、学内ウェブ調査の実績も多く、H25 年度に関しては、北大等との 8 大学連携事業である「学生調査」にも活用された。Plone での調査サイト構築や調査後 のデータ整形にも AA の補助を必要とする。</p>
積算内訳	アカデミック・アシスタント @1200 円 × 8h × 4 日 (1 ヶ月当たり) × 12 ヶ月 = 460,800 円

平成 25 年度 学内教育 G P プログラム事業 (継続型)
現在の進捗状況と今後の事業計画書

取組代表者 半田 智久

事業名称	学生主体の新しい学士課程の創成 -21 世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育- のうち、24 時間利用できる授業・学修支援システム (Plone) の整備と定着 (H25 年度終了予定)
現在の進捗状況	<p>(1)H24~H25 年度にかけて、教員、学生の要望により以下の機能を追加した。 ①SSO 対応、②本文一次保存機能の追加、③教員閲覧スタンプ機能の追加、④ポートフォリオ機能の追加、④研究者用 (自己図書館) 機能の追加、⑤高負荷対策 (varnish)、⑥マニュアル整備 (ビデオ、ipad、iphone 用)。 詳細は H25 年度事業成果報告書および以下の URL を参照されたい。 https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/ochaPlone</p> <p>(2)学修支援 Plone については、現在、常時利用の教員数で 28 名程度である。Google analytics を用いたサイト解析結果によれば、2013 年 10 月 1 日~12 月 13 日までのユーザー数は、1900 名程度であったが、これには 1 度のみの閲覧も含むため常時利用者は、1000 名程度と見込まれる。 また、2012 年度に実施された「学修支援の情報やシステムに関する大学生のニーズ調査」では、Plone の認知度は、44.1%にとどまっていたが、2013 年に実施した「学生調査では、「使ったことがある (53.8%)」と「知っているが使ったことがない (認知はしている) (17.7%)」を合計すると 71.5%となり、大幅に認知度をあげたことから、学生にも序々に浸透してきていることが窺える。学部 1 年生においては、「Plone は不可欠である」と「Plone は便利である」の回答合計が約 7 割を占めた。</p> <p>(3)「事業内容」欄に記載した通り、時間割確定前の授業から Plone が利用できるよう、自己登録制のシステムを現在開発中で、2014 年から利用可能になる予定である。</p>
今後の事業計画	<p>現在、アクティブラーニングや反転型授業にオンライン空間の活用が必須であることが盛んに議論されているが、その実験空間の 1 つとして Plone を活用し、今後も様々な新しい取組を試行錯誤していく予定である。</p> <p>例えば、H25 年度は、新機能の開発業務およびマニュアルの整備を中心に業務を行ってきたが、H26 年度は、広報普及活動に力を入れ、異なるタイプの授業 (講義型、演習型 (ゼミ)、実験等) に対し、複数協力を募った上で、それぞれにおけるオンライン学修の効果を比較検討していく。これは学士課程に限らず、大学院授業に関しても同様にアプローチする予定である。</p> <p>教育開発センターでは、システムを既存商品の消費と捉えアウトソースするのではなく、お茶の水女子大学における強力なソフトパワー (質の良い学修環境開発を維持するパワー、それを低コストで持続させていく人的パワー) の構築契機として捉え、開発業務を行っていくと同時に、対外的にもアピールしていく予定である。</p>

※ この様式は適宜広げて (本用紙を含め 2 枚以内) 記入してください